

先日、進級認定会議を開き、今年度の皆さんの成績や進級の可否について話し合いました。欠点数もここ2年は数年前から比べると激減しました。また授業への出席に関しても時数不足の人はわずかで、少しの補充でここにいる全員の進級が認定できそうです。全体としては、学校が求める成績や出席基準に関して「概ね良好」だったということです。

ただし、皆さんの持っている本来の力や可能性に照らし合わせた場合、満足できる状況だったかというところともいえません。皆さんが担任の先生と学習や進路のことなどについて面接を行うように、先生方も校長である私と面接をし学習指導や生活・進路指導などに関して話し合います。先日の3月20日に約50名の先生方との3学期の面接が終わりました。先生方のお話を聞いて私が感じたのは、先生方が一種のもどかしさを感じておられることでした。それは、特に学習面に関してです。自分の可能性を生かそうとどん欲に取り組んでいないと感じられる人がいることに関するもどかしさです。社高生は高いポテンシャルを持っている、素直で楽しい生徒たちだ。しかしどん欲さがなかったために、自分を磨ききっていない。この「もどかしさ」は先生方の責任感から来ているのだと思います。

皆さんが学習に向かう姿勢として必要なことは、社会人として職業人としても必要なことです。一言で言えば「つかみに行く姿勢」です。それに関して二つほどお話ししたいと思います。

一つめは、「興味・関心はつかみに行く」ということです。学習の原動力は、興味や関心であるのはもったもです。しかし、興味や関心を降ってくるものとして待っているのではないのでしょうか。面白くないからしない、苦手だから取り組まないとすれば、世界はそこで閉じてしまいます。現実の世界では、やむを得ずしなければならないことから新たな興味や関心が湧くこのとほうが多いと思います。つまり、目の前のすべきことに本気で当たることによって興味・関心が起こってくるのです。それが皆さんにとっては学習なのです。町を歩いていたら流れてきた音楽に心を奪われ、そのアーティストに関心を持つようになったということは滅多にないことだと思います。興味・関心は本気の実践の中から生まれると捉えてほしいと思います。それが「興味・関心をつかみに行く」ということです。

二つめは「二兎を追う」ということです。二兎とは、二匹の兎のことです。ことわざに「二兎を追う者、一兎をも得ず」というのがありますが、これは「欲張って二匹の兎を追いかけける者は、一匹の兎も捕まえない。」という意味です。しかし、現実の生活の中では、常に二兎、三兎を追いかけ捕まえないことが起こります。複数のお客さんを抱え担当者として対応する、子育てや介護と仕事の両立、教員の世界では部活動指導と学習指導や進路指導など三兎も四兎もあります。

皆さんにとっては、部活動と学習が二兎に該当する人が多いと思います。部活動を引退したら学習に専念する、学習はそこそこに部活動に専念すると考えている人はいませんか。満足のいく結果が得られるよう2つのことを並行して行うにはどうしたらよいか綿密に考え着実に行動してほしいのです。それを社高生としての誇りとしてほしいと思います。そのために必要なことは「計画と実践」、あるいは「時間管理と着実な行動」です。この習慣こそが、将来何をすることも生きる力となって役立つことになります。学習することには、その内容や技能を身につけること以外に行動様式を身につけることにも大きな意味があることを知ってほしいと思います。

元号も変わります。新しい年度をどう過ごし、何を達成するのかしっかり準備をしておいてください。そして、新入生のよき見本となる先輩となってください。

平成31年3月22日

島根県立大社高等学校  
校長 吉田 彰二